News Release

ボルケーノ・ジャパン、冠血流予備量比(FFR)測定プレッシャーガイドワイヤー
PrimeWire PRESTIGE®(プライムワイヤープレステージ)の薬事承認取得と販売開始を発表

【サンディエゴ　2011 年 4 月 5 日　/PRNewswire】--冠動脈と末梢動脈疾患の診断および治療用製品の開発、製造、販売をリードするボルケーノ・コーポレーション（Volcano Corporation、ナスダック：VOLC）は 5 日、冠血流予備量比(FFR)測定のためのプレッシャーガイドワイヤー、「PrimeWire PRESTIGE®（プライムワイヤープレステージ）」の日本国内での薬事承認取得と販売開始を発表しました。PrimeWire PRESTIGE®は、冠血流予備量比（FFR）の正確な測定に加えて、優れたトルク性能となじみやすい先端チップを持ち、トラッカビリティーと通過性の向上を追求しました。

ボルケーノ・ジャパンの代表取締役社長である大澤潤一は、「日本の先生方は、ガイドワイヤー操作においても世界的に高度な技術を有し、複雑病変の治療により適したワイヤーを常に追求されています。そうしたニーズに応え、PrimeWire PRESTIGE®の開発においては、コイル間隔を詰めることで先端構造に改良を施し、高度な手技に対応できるようになりました。操作性の向上を実現した PrimeWire PRESTIGE®は、アメリカ、ヨーロッパで既に発売されており、臨床現場で積極的に採用されています。」と述べています。

PrimeWire PRESTIGE®は、ボルケーノの従来製品である SmartWire® II と比較しトルク性能を 90％ 改善しました。また、コア・ワイヤーの増加と疎水性 SlyDx™コーティングを施すことにより、トラッカビリティーの改善とスムースなデバイスのデリバリーを実現しました。PrimeWire PRESTIGE®の日本における販売開始は、2011 年、第 2 四半期を予定しています。

冠血流予備量比（FFR）とは
FFR は、ガイドワイヤーをベースにし、狭窄部位前後の血流の圧較差を測定します。また、FFR は、狭窄の有意性を数値で表し、それにより、更なる冠動脈に対する治療が必要であるか否かを判断します。更に、FFR 測定に基づいた治療は、患者の死亡リスク及び心筋梗塞を 34%まで減少させるという内容の臨床スタディ結果が報告されています。

ボルケーノ社（Volcano Corporation）について
ボルケーノ社（ナスダック：VOLC）は血管内の画像診断および治療において、より簡単で、より有効なデバイスを提供し、PCI(低侵襲治療および診断)分野で医療機器業界に革新をもたらしています。ボルケーノ社は超音波や光線を利用したイメージング分野の製品を提供することにより多くの医師の診断および治療に貢献して

います。創業時は冠動脈の診断に使用するカテーテルの製造販売からスタートしましたが、現在は診断だけではなく治療の技術を製品に取り入れ、患者様の QOL の向上に貢献する製品の開発を続けています。
http://www.volcanocorp.com

ボルケーノ・ジャパン株式会社について

ボルケーノ・ジャパンはボルケーノ・コーポレーション（本社 : 米国カリフォルニア州サンディエゴ、NASDAQ: VOLC）の日本法人として 2004 年に設立。　日本における販売代理店のサポートおよび直接販売によって、本社ボルケーノ・コーポレーションが開発・製造をしている血管内超音波診断装置およびそのカテーテル、血流動態診断装置およびそのガイドワイヤーの売上げを伸ばしています。主力製品である血管内超音波カテーテル（IVUS）では、フェイズド・アレイ（電子式）とローテーショナル（機械式）の２つの異なるタイプのカテーテルを製造、販売している世界で唯一の会社です。また、血管内超音波診断装置本体の開発においても血管造影装置にインテグレーション可能な革新的システムを販売しています。
http://www.volcanojapan.com

将来の見通しに関する記述

本プレスリリースには米国 1995 年私的証券訴訟改革法に定める将来の見通しに関する記述が含まれています。本リリースに示される歴史的事実ではないボルケーノの事業に関するいかなる記述も、上述の手技および同社製品の潜在的ベネフィット、同社テクノロジーの市場導入、臨床データおよび他の技術データに関する記述をはじめとした「将来の見通しに関する記述」と見なされる場合があります。将来の見通しに関する記述は経営陣の現在の予備的な予測に基づいており、リスクや不確実性の影響を受けやすく、これによりボルケーノの業績は本文書に含まれる記述とは著しくかつ不利な方向で異なる可能性があります。実際の業績が予測業績と異なる原因となりうる潜在的リスクと不確実性のいくつかに関する詳細情報は、証券取引委員会に向けて作成した Form10-K に関する同社年次報告書、Form10-Q に関する四半期報告書およびその他の文書に含まれます。将来の見通しに関する記述は、これが作成された日付においてのみ述べられていることから、過度に依存されるべきものではありません。ボルケーノは将来の見通しに関する記述の作成日以降、新規情報、イベントまたは状況を反映させるために、あるいは予想外のイベントの発生を反映させるために、将来の見通しに関するいかなる記述も更新する義務を負うものではありません。

問い合わせ先

Edrienne Brandon of Volcano Corporation,
+1-858-720-4136

篠原乙記
ボルケーノ・ジャパン株式会社
マーケティング本部
+81-3-6430-9400
Press_japan@volcanocorp.com